

平成24年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	国際原子力機関 (IAEA) 拠出金 (任意拠出金)		担当部局庁	軍縮不拡散・科学部		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度		担当課室	国際原子力協力室		室長 羽鳥 隆		
会計区分	一般会計		施策名	VII-1 国際機関を通じた政務及び安全保障分野に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	東京電力福島第一原発事故を契機とし、国際的な原子力安全を強化するために策定された「原子力安全に関する国際原子力機関 (IAEA) 行動計画」を実施するために必要なIAEAによる追加的取組に係る経費の一部を負担することにより、国際的な原子力安全の強化に貢献する。右行動計画は、「原子力安全に関するIAEA閣僚会議」における閣僚宣言により、IAEA事務局長が行動計画案を作成しIAEA理事会及び総会へ提出することとされており、平成23年9月のIAEA総会で確定した。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	「原子力安全に関する国際原子力機関 (IAEA) 行動計画」は、全文と12項目の行動から構成され、我が国が提案してきたIAEA安全評価ミッションの拡充等の諸措置を含むもの。また、我が国とIAEAが2012年に共催する原子力安全に関する福島閣僚会議も言及されている。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
	予算の状況	当初予算	-	-	-	-	-	
		補正予算	-	-	480	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	-	-	480	-	-	
		執行額	-	-	480	-	-	
	執行率 (%)	-	-	100	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)	
	IAEAが有する原子力安全に対する専門的知見、技術を活用し、国際的な原子力安全の強化を図る。		成果実績	各項目ミッションによる最終報告書数	-	-	回答待ち	-
			達成度	%	-	-	(回答待ち)	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込	
	原子力安全に関するIAEA行動計画に明らかにされている12項目の措置の実施や支援を通じ、本件事業の円滑な実施及び我が国拠出金の適正な使用を確保する。		活動実績 (当初見込み)	IAEA事務局による行動計画最終報告書数	-	-	回答待ち	-
					()	()	()	()
単位当たりコスト	40百万円/1項目 (480百万円÷12(行動計画項目数))		算出根拠	総予算額÷原子力安全に関するIAEA行動計画項目数				
平成24・25年度予算内訳 (単位:百万円)	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	計	-	-					

事業所管部局による点検

	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	本件行動計画は、東京電力福島第一原発事故を契機とし、国際的な原子力安全を強化するものであり、我が国が提案してきたIAEA安全評価ミッションの拡充等の諸措置を含むものである。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	IAEAが有する原子力安全に対する専門的知見、技術等を活用し、国際的な原子力安全の強化を図ることを目的としており、この目的のために、IAEAに特別拠出金を拠出し、IAEAを支援することは適切である。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	すでにIAEA事務局は本件行動計画の実施のための各種専門家会合を開催している他、我が国とIAEAが2012年に共催する原子力安全に関する福島閣僚会議等についても種々の準備をIAEAをはじめ関係者との間で調整を行っているところである。また、これらの措置は、国内では代替できるものではなく、他の手段と比して実効性が高い。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>これまでのところ、①事業の目的、予算の状況、②資金の流れ、費目・使途、③活動実績、成果実績のいずれの項目でも評価できる点が多く、本件事業は順調に進められてきていると評価出来る。</p>		
<p>予算監視・効率化チームの所見</p>			
<p>—</p>			
<p>上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)</p>			
<p>—</p>			
<p>補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)</p>			
<p>—</p>			
<p>関連する過去のレビューシートの事業番号</p>			
平成22年行政事業レビュー	—	平成23年行政事業レビュー	—